

英語学習についての信念—現職教員研修のための基礎研究

酒井英樹（信州大学）・塩川春彦（北海学園大学）・浦野 研（北海学園大学）
sakaih@shinshu-u.ac.jp, shiokawa@econ.hokkai-s-u.ac.jp, urano@ba.hokkai-s-u.ac.jp

1. 研究の目的

- 英語教員研修のための基礎資料作成

2. 英語学習についての信念

2-1. 定義・分類

- Horwitz (1988): “preconceived notions about language learning” (p. 283)
- Ellis (1994): “strong, pre-conceived ideas about such issues as the importance of language aptitude, the nature of language learning, and the strategies that are likely to work best” (p. 472)
- Richards & Lockhart (1994): Beliefs about (a) English, (b) learning, (c) teaching, (d) the program and curriculum, and (e) language teaching as a profession (pp. 32-41)
- 島田 (1996): 「英語学習の中で経験的に身につけた言語教育・学習に対する固定化した思い込み」 (p. 35)
- Richards & Schmidt (2002): “ideas and theories that teachers and learners hold about themselves, teaching, language learning, and their students” (p. 49)

↓

↓

- 本研究での定義: 言語や言語の指導・学習に関する思い込み

2-2. 先行研究

- 学習者を対象にした研究 (e.g., Horwitz, 1988; Wenden, 1986)
- 教師を対象にした研究 (e.g., Davis, 2003; 古家, 2000; 三島, 2002a, 2002b, 2003; 島田, 1996, 2001)

3. 調査

3-1. 参加者・調査方法

- 参加者: 長野県内の中学校英語教師 (69 名)、北海道内の私立大学非英語専攻 1 年生 (69 名)
- 調査方法: アンケート調査
 - 教師グループ (2005 年 8 月、英語教育に関する研究会で実施)
 - 学習者グループ (2005 年 12 月、英語授業内で実施) 一統制群

3-2. 調査内容

- 質問内容
 - 背景的情報: 職業、年齢、教職年数、出身学部、英語力 (TOEIC 等の得点)
 - 信念に関する質問 (先行研究、特に島田, 1996, 2001 を参考に 28 項目作成)
 - ◇ 言語に関する信念 (23)
 - ◇ 言語指導に関する信念
 - ◆ 読むことの指導 (18, 33, 34, 36)、書くことの指導 (19)、聞くことの指導 (22, 38)、文法の指導 (27, 28)、語彙の指導 (25)、使用言語 (37)、
 - ◇ 言語学習に関する信念
 - ◆ 習得のメカニズム (14, 24, 28, 30, 31)、習得過程 (11, 15, 16, 17, 21, 35)、学習環境 (12)、年齢 (20, 26, 32)、適性 (13)

- 回答方法
 - 5件法(1: まったくそう思わない, 2: あまりそう思わない, 3: どちらともいえない, 4: ややそう思う, 5: 非常にそう思う)

質問項目 (実施順)

番号	項 目
11	生徒同士で、外国語による自由な会話を行なうと、誤りのある英語を使うので、互いの誤りを身につけてしまう。
12	英語を学ぶには、英語が話されている国で学んだほうがよい。
13	知能指数の高い生徒の方が、外国語の習得に成功する。
14	言語は主として模倣（つまり真似をして覚えること）によって学習される。
15	英語を学ぶ日本人学習者は、日本語の影響を受けた間違いをおかす。
16	外国語学習者は母語学習者（つまり、母語を学ぶ子ども）と同じ誤りをおかす。
17	ある文法規則よりも前に別の文法規則を習得する、というような習得の順序がある。
18	英文を読むとき日本語に訳せて初めて理解したと言える。
19	作文は日本語で書いてから英語に訳させるべきである。
20	大人も子どもも同じ習得過程をたどって外国語を習得する。
21	すべての生徒が同じ習得過程をたどって英語の文法を習得する。
22	すべての単語が聞き取れないとその話者の言いたいことは分からない。
23	円滑なコミュニケーションには文法規則の知識があれば十分である。
24	親はふつう子どもの文法的な間違いを訂正する。
25	意味のわからない単語は文脈（つまり、前後関係）から推測させたほうが辞書をひくよりも記憶に残りやすい。
26	一定の時期を過ぎると外国語を習得しにくくなる年齢がある。
27	教師は複雑な文法規則の前に簡単な文法規則を教えるべきである。
28	すべての人間に生得的な言語習得能力がある。（生まれながらにして持っている能力のこと。）
29	生徒の間違いはすべて訂正すべきである。
30	はっきり規則を説明した方が、文法の習得が促進される。
31	学習者は、自分で文法を創造する。（その結果、ある文法規則は、教えられていないのに、身につけていることがある。）
32	外国語学習の開始年齢が低ければ低いほど、それだけ成功の度合いも高い。
33	英文を読む時は文章の構造（例、パラグラフ構造など）を考えて読ませるべきである。
34	英語を読む時、音読したほうが理解が深まる。
35	外国語学習の過程は母語習得の過程と同じである。
36	英文を読む時は読む前に内容を予測したほうが理解が深まる。
37	英語の授業はすべて英語で行なわれるべきである。
38	英語を聞く時は文字を見せるべきでない。

4. 結果

4-1. 英語教師の信念（平均の高い順）

順位	番号	項目	人数	平均	標準偏差
1	28	すべての人間に生得的な言語習得能力がある。(生まれながらにして持っている能力のこと。)	68	4.16	0.82
2	14	言語は主として模倣（つまり真似をして覚えること）によって学習される。	69	4.14	0.83
3	27	教師は複雑な文法規則の前に簡単な文法規則を教えるべきである。	69	3.88	0.88
4	15	英語を学ぶ日本人学習者は、日本語の影響を受けた間違いをおかす。	69	3.84	0.88
5	12	英語を学ぶには、英語が話されている国で学んだほうがよい。	69	3.75	1.03
6	36	英文を読む時は読む前に内容を予測したほうが理解が深まる。	69	3.70	0.94
7	34	英語を読む時、音読したほうが理解が深まる。	68	3.65	0.97
8	33	英文を読む時は文章の構造（例、パラグラフ構造など）を考えて読ませるべきである。	69	3.54	0.83
9	31	学習者は、自分で文法を創造する。(その結果、ある文法規則は、教えられていないのに、身につけていることがある。)	69	3.54	0.70
10	26	一定の時期を過ぎると外国語を習得しにくくなる年齢がある。	69	3.42	1.12
11	25	意味のわからない単語は文脈（つまり、前後関係）から推測させたほうが辞書をひくよりも記憶に残りやすい。	69	3.35	0.90
12	32	外国語学習の開始年齢が低ければ低いほど、それだけ成功の度合いも高い。	69	3.33	0.97
13	17	ある文法規則よりも前に別の文法規則を習得する、というような習得の順序がある。	66	3.30	0.89
14	13	知能指数の高い生徒の方が、外国語の習得に成功する。	69	3.22	0.86
15	30	はっきり規則を説明した方が、文法の習得が促進される。	68	3.18	0.91
16	24	親はふつう子どもの文法的な間違いを訂正する。	69	3.17	1.16
17	38	英語を聞く時は文字を見せるべきでない。	69	2.96	0.90
18	37	英語の授業はすべて英語で行なわれるべきである。	69	2.94	1.00
19	16	外国語学習者は母語学習者（つまり、母語を学ぶ子ども）と同じ誤りをおかす。	66	2.70	0.84
20	35	外国語学習の過程は母語習得の過程と同じである。	69	2.61	1.00
21	11	生徒同士で、外国語による自由な会話を行なうと、誤りのある英語を使うので、互いの誤りを身につけてしまう。	69	2.26	0.80
22	29	生徒の間違いはすべて訂正すべきである。	69	2.10	0.88
23	20	大人も子どもも同じ習得過程をたどって外国語を習得する。	69	2.04	0.95
24	18	英文を読むとき日本語に訳せて初めて理解したと言える。	68	1.97	0.75
25	21	すべての生徒が同じ習得過程をたどって英語の文法を習得する。	69	1.83	0.69
26	19	作文は日本語で書いてから英語に訳させるべきである。	69	1.81	0.81
27	23	円滑なコミュニケーションには文法規則の知識があれば十分である。	69	1.61	0.67
28	22	すべての単語が聞き取れないとその話者の言いたいことは分からない。	69	1.42	0.50

注：網掛けは、平均が 4.00 以上と 2.00 以下のもの

4-2. 英語学習者の信念（平均の高い順）

順位	番号	項目	人数	平均	標準 偏差
1	12	英語を学ぶには、英語が話されている国で学んだほうがよい。	69	4.23	1.09
2	27	教師は複雑な文法規則の前に簡単な文法規則を教えるべきである。	69	4.16	0.70
3	32	外国語学習の開始年齢が低ければ低いほど、それだけ成功の度合いも高い。	69	4.09	0.98
4	14	言語は主として模倣（つまり真似をして覚えること）によって学習される。	69	4.04	0.65
5	34	英語を読む時、音読したほうが理解が深まる。	69	3.99	0.98
6	28	すべての人間に生得的な言語習得能力がある。（生まれながらにして持っている能力のこと。）	69	3.99	0.90
7	15	英語を学ぶ日本人学習者は、日本語の影響を受けた間違いをおかす。	69	3.87	0.82
8	33	英文を読む時は文章の構造（例、パラグラフ構造など）を考えて読ませるべきである。	69	3.72	0.92
9	36	英文を読む時は読む前に内容を予測したほうが理解が深まる。	69	3.61	1.05
10	26	一定の時期を過ぎると外国語を習得しにくくなる年齢がある。	69	3.59	1.14
11	25	意味のわからない単語は文脈（つまり、前後関係）から推測させたほうが辞書をひくよりも記憶に残りやすい。	69	3.57	1.14
12	30	はっきり規則を説明した方が、文法の習得が促進される。	69	3.36	0.95
13	17	ある文法規則よりも前に別の文法規則を習得する、というような習得の順序がある。	68	3.15	1.07
14	24	親はふつう子どもの文法的な間違いを訂正する。	69	3.04	1.06
15	31	学習者は、自分で文法を創造する。（その結果、ある文法規則は、教えられていないのに、身につけていることがある。）	69	2.94	0.91
16	29	生徒の間違いはすべて訂正すべきである。	68	2.94	1.20
17	38	英語を聞く時は文字を見せるべきでない。	67	2.78	1.04
18	13	知能指数の高い生徒の方が、外国語の習得に成功する。	69	2.77	1.30
19	11	生徒同士で、外国語による自由な会話を行なうと、誤りのある英語を使うので、互いの誤りを身につけてしまう。	69	2.72	1.00
20	18	英文を読むとき日本語に訳せて初めて理解したと言える。	69	2.70	1.22
21	16	外国語学習者は母語学習者（つまり、母語を学ぶ子ども）と同じ誤りをおかす。	69	2.68	0.87
22	37	英語の授業はすべて英語で行なわれるべきである。	69	2.64	1.15
23	35	外国語学習の過程は母語習得の過程と同じである。	69	2.43	1.01
24	20	大人も子どもも同じ習得過程をたどって外国語を習得する。	69	2.36	1.14
25	19	作文は日本語で書いてから英語に訳させるべきである。	69	2.26	1.11
26	23	円滑なコミュニケーションには文法規則の知識があれば十分である。	69	2.03	1.01
27	21	すべての生徒が同じ習得過程をたどって英語の文法を習得する。	69	1.99	0.95
28	22	すべての単語が聞き取れないとその話者の言いたいことは分からない。	69	1.58	0.72

注：網掛けは、平均が 4.00 以上と 2.00 以下のもの

4-3. 英語教師（60名）と英語学習者（65名）の相違（効果量 d の高い順に 15 項目）

順位	番号	項目	d	教師 平均	学生 平均
1	29	生徒の間違いはすべて訂正すべきである。	0.75	2.08	2.91
2	31	学習者は、自分で文法を創造する。（その結果、ある文法規則は、教えられていないのに、身につけていることがある。）	0.75	3.57	2.92
3	32	外国語学習の開始年齢が低ければ低いほど、それだけ成功の度合いも高い。	0.72	3.33	4.08
4	18	英文を読むとき日本語に訳せて初めて理解したと言える。	0.66	1.98	2.69
5	23	円滑なコミュニケーションには文法規則の知識があれば十分である。	0.51	1.58	2.03
6	19	作文は日本語で書いてから英語に訳させるべきである。	0.45	1.82	2.26
7	11	生徒同士で、外国語による自由な会話を行なうと、誤りのある英語を使うので、互いの誤りを身につけてしまう。	0.42	2.28	2.68
8	12	英語を学ぶには、英語が話されている国で学んだほうがよい。	0.39	3.77	4.18
9	13	知能指数の高い生徒の方が、外国語の習得に成功する。	0.37	3.22	2.80
10	27	教師は複雑な文法規則の前に簡単な文法規則を教えるべきである。	0.35	3.85	4.14
11	28	すべての人間に生得的な言語習得能力がある。（生まれながらにして持っている能力のこと。）	0.34	4.23	3.94
12	20	大人も子どもも同じ習得過程をたどって外国語を習得する。	0.32	2.03	2.38
13	34	英語を読む時、音読したほうが理解が深まる。	0.32	3.62	3.94
14	22	すべての単語が聞き取れないとその話者の言いたいことは分からない。	0.29	1.42	1.60
15	25	意味のわからない単語は文脈（つまり、前後関係）から推測させたほうが辞書をひくよりも記憶に残りやすい。	0.28	3.27	3.55

注: 1. 効果量 d は、2 グループの平均の差を全体の標準偏差で割った数値

2. 網掛けは、効果量 d が 0.50（一般的に中程度の差と判断される）以上のもの

4-4. 教職経験 10 年未満（28 名）と 10 年以上（30 名）の相違（効果量 d の高い順に 15 項目）

順位	番号	項目	d	10 年未満 平均	10 年以上 平均
1	19	作文は日本語で書いてから英語に訳させるべきである。	0.63	1.54	2.07
2	26	一定の時期を過ぎると外国語を習得しにくくなる年齢がある。	0.63	3.75	3.07
3	14	言語は主として模倣（つまり真似をして覚えること）によって学習される。	0.56	4.36	3.90
4	28	すべての人間に生得的な言語習得能力がある。（生まれながらにして持っている能力のこと。）	0.54	4.00	4.43
5	33	英文を読む時は文章の構造（例、パラグラフ構造など）を考えて読ませるべきである。	0.46	3.75	3.37
6	22	すべての単語が聞き取れないとその話者の言いたいことは分からない。	0.43	1.29	1.50
7	38	英語を聞く時は文字を見せるべきでない。	0.43	2.79	3.17
8	31	学習者は、自分で文法を創造する。（その結果、ある文法規則は、教えられていないのに、身につけていることがある。）	0.35	3.71	3.47
9	13	知能指数の高い生徒の方が、外国語の習得に成功する。	0.29	3.32	3.07
10	35	外国語学習の過程は母語習得の過程と同じである。	0.28	2.79	2.50
11	32	外国語学習の開始年齢が低ければ低いほど、それだけ成功の度合いも高い。	0.27	3.43	3.17
12	18	英文を読むとき日本語に訳せて初めて理解したと言える。	0.24	1.86	2.03
13	17	ある文法規則よりも前に別の文法規則を習得する、というような習得の順序がある。	0.23	3.50	3.30
14	16	外国語学習者は母語学習者（つまり、母語を学ぶ子ども）と同じ誤りをおかす。	0.18	2.61	2.77
15	20	大人も子どもも同じ習得過程をたどって外国語を習得する。	0.18	2.11	1.93

注: 1. 効果量 d は、2 グループの平均の差を全体の標準偏差で割った数値

2. 網掛けは、効果量 d が 0.50（一般的に中程度の差と判断される）以上のもの

5. 考察・結論

- 英語教師の信念
 - 生得的な言語能力と模倣による外国語学習という、一見相反する項目に対して強い信念を持っている (14, 28)。
 - コミュニケーションのためには文法・語彙の知識および和訳・英訳だけでは不十分であると認識している (18, 19, 22, 23)。
- 英語学習者の信念
 - 低年齢からの外国語学習、英語圏での英語学習の効果について強い信念を持っている (12, 32)。
 - 模倣と練習によって積み上げるタイプの学習法を好意的に感じている (14, 27)。
- 英語教師と学習者の比較
 - 全体的傾向は類似している (Spearman's $\rho = .91, p < .001$)。
 - 学習者と比べ、教師は、開始年齢が低くなくても外国語学習は可能である (32)、学習者は教えた以上のことを学んでいる (31)、また学習者の間違いを全て訂正する必要はない (29) と考えている。また、コミュニケーションにおける文法規則や訳の役割について学習者よりも教師の方が低く見積もっている (18, 23)。
- 教職経験の影響
 - 教師全体に見られる生得的な言語能力と模倣による外国語学習に関する信念は、前者は教職経験の短い教師に、後者は経験の長い教師により明確である (14, 28)。
 - 教職経験の長い教師の方が、訳 (和訳・英訳) の役割を強く感じている (18, 19)。
 - 教職経験の長い教師の方が、開始年齢が低くなくても外国語学習は可能であると考えている (32)。

6. 引用文献

- Davis, A. (2003). Teachers' and students' beliefs regarding aspects of language learning. *Evaluation and Research in Education*, 17, 207-222.
- Ellis, R. (1994). *The study of second language acquisition*. Oxford: Oxford University Press.
- 古家貴雄. (2000). 「英語教師の指導方法の信念に関する基礎的研究—英語の得意、不得意な生徒に対する指導方法観の違いについて—」『関東甲信越英語教育学会研究紀要』第 14 号, 55-65.
- Horwitz, E. K. (1988). The beliefs about language learning of beginning university foreign language students. *The Modern Language Journal*, 2, 283-294.
- Mishima, T. (2002a). *A comparative study of beliefs and anxiety about foreign language learning between JTEs and Japanese EFL senior high school students*. MA thesis presented to Joetsu University of Education.
- 三島達也. (2002b). 「日本人 EFL 高校生の英語学習についての信念と不安に関する一研究」『中部地区英語教育学会紀要』第 32 号, 103-110.
- 三島達也. (2003). 「JTE・日本人 EFL 高校生の外国語学習についての信念と不安に関する比較研究」『上越英語研究』第 4 号, 11-21.
- Richards, J. C., & Lockhart, C. (1994). *Reflecting teaching in second language classrooms*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Richards, J. C., & Schmidt, R. (2002). *Longman dictionary of language teaching & applied linguistics*. London: Pearson Education.
- 島田勝正. (1996). 「『英語科教育法』受講生の英語学習・教授に対する意識変化」『中部地区英語教育学会紀要』第 26 号, 35-40.
- 島田勝正. (2001). 「ビリーフテスト：学習と指導の相関」『中部地区英語教育学会紀要』第 31 号, 15-20.
- Wenden, A. L. (1986). What do second-language learners know about their language learning? A second look at retrospective accounts. *Applied Linguistics*, 7, 186-205.